

年間授業計画

科 目 名	商品開発と流通	単 位 数	3 単位	学 年 ・ 学 科	2 学 年 流通ビジネス科	必修	・ (選択)
教科書名	教科書番号 (出版社) 教科書名 7 3 2 (実教出版) 商品開発と流通			副教材名			
科 目 の 目 標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習内容と進め方	グループ学習やケーススタディを通して、多様な商品提供の現状や商品開発の手順と考え方について、実習や開発事例を取り上げながら授業を展開して行きます。						
学 習 の 留 意 点	「発表する」「話し合う」「論理的に考える」「まとめる」「意見を述べる」「探求する」ことが多い授業です。常に主体的に参加する意識で授業に取り組むこと。						
月	単 元	予定 時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考 (評価項目)
				1	2	3	
4	Introduction 1 なぜ商品開発と流通は行われるのか？ 2 なぜ『商品開発と流通』を学ぶのか？	2 1 6	日常生活を送るために、商品には必要不可欠なものであり、それを入手するためには流通も重要であることを理解する。『商品開発と流通』の概要を理解する。				
5	1 章 商品開発と流通の概要 1 私たちの生活と商品	1 8	商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。商品開発の意義、商品開発の手順、流通の仕組みについて理解し、学習の見通しをたてる。	○		○	商品の成り立ちと流通の「課題 (ワークシート)」取り組み
6	2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり						
7	2 章 商品の企画 1 環境分析と意思決定の準備 2 市場調査 3 商品コンセプトの策定	1 9	商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。商品開発の開発テーマ、環境分析、商品コンセプトを考察し、具体的に商品企画書を作成し、プレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。競争環境や需要予測等に基づいた、価格の設定、流通チャネルの種類と特徴について理解する。プロモーション計画を理解し、事業計画書を作成しプレゼンを行う。	○		○	マクロ・ミクロ分析の「課題 (ワークシート)」取り組み
8	4 商品企画の提案 3 章 事業計画の立案 1 事業計画の概要			○		○	商品企画書作成の「課題 (ワークシート)」取り組み
9	2 価格計画 3 流通計画			○	○		プロモーションの「課題 (ワークシート)」取り組み 前期期末考査・返却
10	4 プロモーション計画 5 事業計画書の作成					○	
11	4 章 商品の開発 1 商品仕様と詳細設計 2 プロトタイプ	1 8	商品仕様と詳細設計について理解する。プロトタイプの種類と目的、テスト及び評価により、課題を書きさらかにし理	○	○		N B と P B の商品開発事例の「課題 (ワークシート)」取り組み
12	3 商品とデザイン 4 ブランド		商品デザインの役割や要素、種類等について理解する。商品デザインの技法、ブランドについて理解する。知的財産権の内容、重要性について理解する。	○	○	○	後期中間考査・返却
1	5 知的財産権の登録 5 章 商品の販売 1 販売員活動	4	販売員活動について、プロセス、役割、セールスプロモーションについて理解する。	○		○	知的財産法、関税法の「課題 (ワークシート)」取り組み
2	2 セールスプロモーション 6 章 商品と流通に関わる新たな展開 1 商品開発の新たな展開	1 8	顧客ニーズの多様化から、デザイン思考について理解する。流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。	○	○		最新の販売員活動について「課題 (ワークシート)」取り組み
3	2 流通の新たな展開 3 感覚を活かした商品開発・流通	1 0	感覚を活かしたプロモーション活動等を、企業における事例と関連付けて考察する。	○		○	後期期末考査・返却 新しい商品開発の創造 (SDG s) の「課題 (ワークシート)」取り組み
評価方法	(1) 評価の観点は下記の表のとおりとする。 (2) 具体的には定期考査や課題の提出状況、学習活動への参加の仕方や態度などから評価します。						
評価の観点	観点	趣旨					
	1. 知識・技能	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。					
	2. 思考・判断・表現	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。					
	3. 主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。					
評価基準	1. 知識・技能	A 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品、流通に関する知識を身に付けている。 B 商品開発と流通について商品開発の企画から販売及び流通の役割について知識を身に付けている。 C 商品開発と流通について商品開発の企画から販売及び流通の役割について知識を身に付けていない。					
	2. 思考・判断・表現	A 商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、ビジネスの動向や課題を発見し、計画、提案をすることができる。 B 商品開発と流通の様々な情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見することができる。 C 商品開発と流通の様々な情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を理解することができない。					

	3. 主体的に学習に取り組む態度	A 自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び他者と積極的に関わり、学習活動に責任をもって取り組むことができる。 B 商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。 C 商品開発と流通に関する学習活動に消極的である。
--	------------------	--